

グローバルCOEプログラム「コンフリクトの人文国際研究教育拠点」
「コンフリクトの人文」セミナー 第61回

映像メディアとコンフリクト：

ミンダナオの「Films for Peace」を事例として

講師：大宮 直明
(映像作家・監督)

要旨：

映像メディアは両刃の剣である。人々の情緒に直接訴えかけることが可能なこの表現手段は、ナチスや大日本帝国の例に見られるよう、時に世論を扇動し、人々の好戦的な気分を助長してきた（いる）。その一方で、映像メディアが人々に和解を促す可能性も模索されている。熱くなった頭を冷やし、対立の原因を冷静に解き明かすことで、物事を別の角度から見る視座を与える可能性もまた、映像メディアは有している。

本セミナーでは、2010年9月、ミンダナオ島コタバトで10代後半の青年男女（Muslims, Christians and Indigenous People）18名が参加し、行なわれたワークショップ「Films for Peace」でのレクチャー内容をもとに、広い意味でのコンフリクトを扱った映像事例を参照しながら、和解を促すための映像制作に必要なもの―「スタンス」「脱ステレオタイプ」―について論じる。また、わずか6日間のワークショップ期間中、コタバトの青年たちがシナリオの作成から撮影、編集を行なった作品（3分×5本）を紹介する。映像事例として取り上げる作品は『ノーマンズ・ランド』『ザ・コーヴ』『セプテンバー11（ショーン・ペン監督作品）』他。可能であれば事前に視聴されることを望む。

講師紹介：

京大映画部出身。テレビディレクター、JICA職員を経て、現在フリーの映像制作者。CVP（Creators for Vulnerable People）代表を務める。2009年には、スーダンと日本の年寄りたち取材したドキュメンタリー映画『アブバとヤーバ』を自主製作する。現在の関心は、国家や制度という枠組みのマージナルな領域にいる人たちの生き様について。主な作品に『おかぐら』（2007）、『尾方美樹の方法と夢』（2008）、『カシナマジュパン』（2010）、『心をひらいて』（2010）がある。

日時：2010年12月20日（月） 17:00 ～ 19:00

会場：大阪大学大学院人間科学研究科（吹田キャンパス） ユメヌホール （参加無料）

e-mail: globalra@hus.osaka-u.ac.jp

東館は万博外周道路側の別館です。大阪大学大学院人間科学研究科（吹田キャンパス）への交通アクセスは <http://www.hus.osaka-u.ac.jp> をご参照ください。

お問い合わせ先：

大阪大学大学院人間科学研究科人類学研究室

